
夜景

アメメン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜景

【著者名】

【作者名】
アメメン

【著者名】
N3637C

【あらすじ】

地球の裏側を探検するのが夢でポルトガル語を専攻したはずの僕は、夜の地下街で彼女を見つけた。

夜の9時だというのに、彼女はサンドイッチと牛乳を買っていた。大抵の人が一日の疲れを体中から滲ませている時間に、洗い立ての香りを漂わせている彼女の存在は、この駅に通じる暗い地下街には似合わない。

あと3分で家の玄関・・という所にあるコンビニのレジで、支払いを済ませた直後に携帯が鳴ったのだ。

クレームの電話だった。

頭なんか下げたくもないのに、ペコペコしている姿がガラスに映る。今は、それを情けないと思つよりも、温めもらつたばかりのホカホカの中華丼を持って、会社に戻らなくてはならない・・という状況に対して無性に腹が立つた。

小学校の夏休みに作った人生の予定表では、今頃は南米のジャングル辺りを探検している筈だったのに・・。

小さい頃からの夢を叶える為に、わざわざポルトガル語科のある大学を選んで入学したところまでは順調だった。

どこで踏み違えたのか、夢はおろか語学力を生かす仕事に就く事も出来ずに、こうして家路を急ぐ人波に逆行しながらクレーム処理をする為に、夜の9時に暗い地下街を会社に戻る為に歩いているのだ。会社に着く頃には中華丼は冷め切つて、袋の中で凍えているに違いない。

地下街の・・それもシャッターを下ろしかけたパン屋で、彼女を見つけるまでは全ての事が無意味に思えていた。

こんな時間にサンドイッチに牛乳・・なんて、他の人から見たら可笑しいわよね。

でも、私の一日は、始まつたばかりだもの。

受験に失敗してから、私の人生の時計は狂いつぱなし。

語学に自信があつたから英文科に通つて、外資系の会社に就職して・

・・上手くいつたら海外勤務・・・というのが夢だった。

結局どこも落ちこちて、専攻出来たのはポルトガル語。

でも、夢の半分・・いや、三分の一だけは叶つたというべきかもしない。

外資系の会社には就職することが出来たのだから・・。

でも、12時間の時差があつて、日本の昼間は向こうの夜。人と人とのコミュニケーションを妙に大切にするお国柄のせいで、日本に居ながら、海の向こうの国の時間に合わせて生活するはめになってしまった。

せっかく日当たりの良い部屋を借りたのに、ベランダで陽を浴びて青空の輝きを享受しているのは洗濯物達だけ。

友達とランチをしたり、ショッピングに行つたりするのも無理。

合コンなんて、夢のまた夢。

すれ違いざまに、彼女の溜息と僕のモヤモヤが入り交じつて一つに重なつた。

今では、一人並んで夜の8時に朝食・・・という生活を楽しんでいる。夜中の12時に、東京の夜景を見下ろしながら食べる彼女の手作り弁当は実に美味しい。

地球の裏側の時間に合わせた奇妙な生活も、一人だと案外楽しいものだ。

以下の悩みは、夜の9時から子供を預かってくれるような保育所がない事。

見つからないと、いつまでたっても子供を作る事が出来ない。

「いつその事、海を渡つて子供を作る?」と、彼女が笑つた。子供の頃からの夢を叶えてみるのも、悪くないかも知れないね・・と、僕は笑い返す。

窓の向こうで、東京タワーが赤く瞬いた。
おわり

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3637c/>

夜景

2010年10月17日02時19分発行